

小学校 第1学年 A表現（1）イ，（2）イ B鑑賞（1）ア		実践校 垂井町立垂井小学校 授業者 渡邊 幸代 実践時期 1学期 全6時間
題材名 みてみて あのね （わたしのしゃぼんだま）		

つながりを生かす

① 子ども・ひとの「つながり」を生かした、子ども同士の対話的な学び

「導入」では、体験した活動の楽しさや、見つけた色・形について伝え合い、「展開・振り返り」でも、自然な鑑賞が生まれるように座席を工夫することで、互いの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいことや表し方について考えることができ、自分の見方・感じ方を広げることができる。

② 場所・特色の「つながり」を生かした、材料や用具の工夫

しゃぼん玉の色の重なりや透明感・その美しさを表すために、クレヨン・パスに加え、絵の具を用いて表現できることを指導し実践した。不思議な色の重なり・流れるような色の美しさ感動し、多様に变化するしゃぼん玉の色を表現できた喜びを感じながら描くことができた。

③ 学習・題材の「つながり」を生かした、他教科（生活科）の学び

生活科「なつがやってきた（みずであそぼう）」の単元で、大きなしゃぼん玉や一度にたくさん作れるしゃぼん玉を工夫し、楽しく遊んだ。液を付ける道具を工夫し、大きなしゃぼん玉やたくさんのしゃぼん玉を飛ばすことができた時の喜びを、絵に表したいという意欲をもつことができた。

題材の流れ

（生活科）しゃぼん玉を作って遊ぶ

道具や飛ばし方を工夫し、大きなしゃぼん玉や一度にたくさんできるしゃぼん玉を作って遊ぶ。

第1時 絵に表したいことを見つける

しゃぼん玉遊びの様子を思い浮かべて、感じたことや見つけた色や形を発表し合いながら、絵に表したいことを見つける。

第2・3時 構図を捉え、線画を描く

表したいことの形や色を思い浮かべながら、大きさや形を工夫して、1色のパスで線描きをする。

第5時 絵の具で着色する

しゃぼん玉の色の重なりや透明感が表せる絵の具の使い方を知り、着色する。

第6時 鑑賞会

自分や仲間の作品を見て、面白さや楽しさを見つけて発表し合い、自分の見方・感じ方を広める。

作品例

楽しそうな表情を工夫したよ



しゃぼん玉の不思議な色を工夫したよ

ポイント1

○しゃぼん玉を作る時に使った道具や写真を見ながら会話できる環境をつくる

この道具に液を付けて風が吹くと、大きなしゃぼん玉ができたよ。
いろいろな色が混ざってどんどん変わっていったよ。

楽しそうな自分の顔や手や腕を真ん中にすると、大きなしゃぼん玉が描けないから、少し横か下の方に描こう。
小さなしゃぼん玉がたくさんできたから、顔の横や頭の上にたくさん描こう。

画用紙に水を付けて、いろいろな色の絵の具を垂らすと、しゃぼん玉の色になってすごいね。
しゃぼん玉のきれいな色ができた。楽しいな。

ポイント2

○構図（自分をどんな大きさで、どこに描くと表したいことがよくわかるように描けるか）を考えるために提示資料を用いる。

○一瞬で消えてしまうしゃぼん玉の色や形を見つめるため、活動の写真をみる



授業を終えて

児童の「楽しかったしゃぼん遊びの様子を伝えたい。」という想いを実現するために、色や形を工夫するための手だてを考えて指導した。色の美しさを楽しみ、表現の喜びを味わうことができた。